

Q. 8 『よい授業』をするための指導技術にはどのようなものがありますか。

A. 『よい授業』には効果的な指導技術が不可欠です。その多くは、どの教科でも共通して使えるものです。この指導技術は、年数が経てば自然に身に付くものではなく、日々の授業実践を振り返りながら、少しずつ磨いていくものです。他の教師の授業を見て、「うまい指導だな」と思える場面に出合うことがあるでしょう。よい方法だと思えば早速自分の授業でも取り入れてみたり、自分で独自に考えて実践したりして、試行錯誤を繰り返しながら自分なりの指導技術を身に付けていくことが大切です。

○基本的な指導技術

指導技術は多岐にわたりますが、本書では次のようなものを想定しています。

- | | |
|----------------|-----------|
| ○教師の話し方 | ○発問 |
| ○話し合い活動や聞き方の指導 | ○指名 |
| ○机間指導 | ○板書やノート指導 |
| ○教科書や教具の活用 | ○学習形態の工夫 |
| ○ほめ方や叱り方 | ○教具の活用 など |

この中のいくつかについて、【Q. 9～16】で紹介しています。



○教師の言動

私たちは、表情を変えたり、身振り手振りなど身体を動かしたりして、話すことが多いものです。このことも有効な技術になる場合があります。話の内容や状況に応じて話し方や表情を変えることで、子どもたちへの伝わり方が違ってきます。

また、授業中どこを見て話すのか（視点の置き方）、どこに立つのか（立ち位置）を考えたり、子どもの理解度を確認するために目配りをしたりすることも重要な技術です。【Q. 10 参照】

○教師の姿勢

授業技術以前の問題として、指導者としての姿勢が問われます。例えば、次のような項目について、絶えず自分自身を振り返り、指導に当たる必要があります。

- * ふるまいや服装などに、子どもたちが授業に集中するのを妨げるものはないか。
- * 子どもたち一人一人に対して、正しく公平に接しているか。
- * 児童生徒を一人の人間として尊重し、子どもたちの声に耳を傾けているか。

さらに、子どもたちとの信頼関係を築くことも大切です。子どもたちとの心のつながりが授業成立の大きな土台となるのは言うまでもありません。そのためにも、子どもたちから信頼され、理解される教師を目指したいものです。平素から、授業以外の場面でもよりよい関係づくりを心がけましょう。